



令和6年度
修了式号



大山崎町立大山崎中学校

学校だより

京都府乙訓郡大山崎町字円明寺小字松田15-1
TEL 075-957-1365 FAX 075-954-5337
<http://www.kyoto-be.ne.jp/ooyamazaki-jhs/>



本年度もありがとうございました..

校長 密谷 由紀

3月の別称は「弥生（やよい）」です。「弥」には、いよいよという意味、「生」には生い茂るという意味があります。3月は草木がいよいよ生い茂る時期です。冬の間、土の中でしっかり根っこをはった草木がその姿を見せます。数日前から、快晴があっても長続きせず、雨が降ると数度気温が下がって肌寒くなる日が続いています。しかし温寒を繰り返しながらも、着実に春色は濃くなってきました。

この一年を振り返ると、学校には常に子どもたちの頑張っている姿がありました。日々の活動や行事の中にたくさんの物語がありました。いっぱい汗をかき、いっぱい笑い、いっぱい涙しました。そして、個人としても、集団としても「達成感」と「感動」を手に入れました。こうした様々な体験・経験は、人としての幅を広げ、大きく豊かな心を育てます。

また、先日の卒業式では、卒業生133名が胸を張って、この学び舎を巣立っていきました。卒業生による式歌「旅立ちの日に」の合唱は最高でした。私も涙が止まりませんでした。卒業生には中学3年間の思い出を心に刻み、前を向いて、時には立ち止まりながらも、力強く前進してほしいと心から願っています。

子どもたちは、今「思春期」を通過中です。個人差がありますがこの時期にはいろいろな変化が訪れます。『大人との関係』もその一つです。子どもたちは、「もう大人?」「まだ子ども?」の間を行ったり来たりしながら大人との考えのすれ違いや衝突により、心が揺れたり荒れたりします。子を思う親ほど、揺れている子どもにつきあうことになるので、親はさらに大変です。子どもは、心身ともに変化が著しい思春期の“怪物のような自分”に戸惑い、親は“怪物と化した子どもの心”との接し方に悩みも尽きないと思います。周りの親御さん同士で助言しあったり、学校での懇談会の際に悩みを出し合ったりすると心が軽くなることもあります。子どもの揺れ動く心に対して、それを包み込む大きな心で、余裕をもって接していくことが何よりだと思います。

私の好きな本「子どもが育つ魔法の言葉」（ドロシー・ロー・ノルト著）の一節を紹介します。

～ ^ほ 誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ ～

子どもを誉めることは、親の大切な愛情表現の一つです。子どもは、親の言葉に励まされて、自分は認められ愛されているのだと感ずるのです。親の誉め言葉は、子どもの心の栄養となります。子どもの健全な自我形成には欠かすことが出来ません。

子どもが成し遂げたことだけでなく、その子の意欲も誉めましょう。子どもを誉めすぎるということはありません。子どもが大人になり、様々な苦難にぶつかった時、子どものころ親に誉められたことが、心の強い支えになります。親の言葉を、子どもは一生忘れないのです。

子どもは、自分を誉めてくれる親を見て育つことで、友達との関係でも相手の良いところを認めて仲良くやっていくことの大切さを学びます。こうして、子どもは、相手の長所を認められる明るい子に育ちます。親に誉められた分だけ、人に好かれる子になるのです。

最後になりましたが、この一年間、保護者の皆様、地域の皆様には、さまざまな形で学校を支援していただき、ありがとうございました。皆様からのご意見により、早期に対応できたことや年度途中で改善できた点多々ありました。また、励ましのお言葉をいただき、勇気づけられることもありました。多くの皆さまのおかげで、本年度の本校の教育活動を進めることができましたことに、心から感謝しお礼申し上げます。



第54回卒業証書授与式

3月14日（金）、令和6年度第54回卒業証書授与式を挙行了しました。多くのご来賓、保護者の方々、2年生の後輩たちに見守られ、卒業生133名が胸を張って元気にお巣立っていきました。

犬飼調音さん（2年）は、3年生を送り出す在校生の代表として、堂々とした姿で送辞を読みました。また、卒業生代表の木村達樹さんの答辞では、3年間の思い出や支えてもらった方々への感謝、在校生へのメッセージなどが語られ、最後は「“山中生”として過ごしたこの三年間をとっても誇りに思います！」で締めくくられました。とてもあたたかく心のこもった答辞でした。そして、式のフィナーレを飾る卒業生による式歌「旅立ちの日に」の合唱によって、体育館中が感動に包まれました。

卒業生の皆さんのご活躍を、大山崎中学校教職員、在校生一同お祈りしています。



奥野七夢さん 講演会

『15歳でがんになって 伝えたいこと』

3年生は卒業前の3月10日に、本校卒業生の奥野七夢（おくの なつむ）さんをお招きして、講演会を行いました。奥野さんご自身の闘病体験から、“一度きりの人生を自分軸で生きよう！”というメッセージを3年生に送っていただきました。

◇ 奥野さんの紹介 ◇



- ・大山崎中学校 平成29(2017)年度卒業
- ・野球少年！
 - ・小学生の頃から野球を始め、中学時代には大阪のクラブチームに所属し、全国大会にも出場。
 - ・高校は、京都の甲子園常連校に野球推薦が決まっていたが…
- ・中3の3学期、急性骨髄性白血病を発症。
- ・2度の再発（3回の骨髄移植）を乗り越え、現在、医療機関や大学病院、学校等で精力的に講演活動をしてられます。

3年生の感想・奥野さんへのお礼（一部抜粋）

- この中3の時期に白血病にかかって、すごく気持ち的にも体力的にもしんどいだろうなと思って話を聞いていました。2度も再発を繰り返しても、今、前向きに捉えて話をされていて、本当にすごいなと思いました。高校生活は少し不安に思っていたことがありましたが、楽しんでいきたいと思います。
- 奥野さんの貴重なお話を聞ける機会があって、すごく有り難かったです。がんの闘病生活は辛くてしんどいというイメージがあったけど、思っていたよりもはるかに過酷なもので、聞いていてすごく心が痛みました。でも、その話をわかりやすく明るく話してくださって、奥野さんは強い人だと思いました。また、がんやその治療法についても学ぶことができました。本当にありがとうございました。
- 辛い経験であるにもかかわらず、明るく話される姿に感動しました。「再発する可能性があるからこそ、今を楽しんでいる」と話してくださり、人生がいつ終わるかわからないのは私たちも同じなので、一日一日を大切にしなければいけないと改めて思いました。しんどい時でもやりたいことを探せることは、すごいことだと思いました。これからも前向きに、当たり前を大事にして生活していこうと思います。
- 卒業直前のこの時期に大切な話を講演会で聞くことができ、とても嬉しかったです。本当にありがとうございました。笑顔で話をしてくださったけれど、再発するにつれ、どんどん治療が大変になっていたり、入院生活が辛くなっていたりするのを聞くと、当たり前への感謝を、本当に大切にしていきたいと思いました。私も中学校を卒業した後、奥野さんのように、自分の思いをしっかりとって、それを伝えていけるような立派な人になりたいと思いました。これからも頑張ってください。

表彰関係

● 京都府学年別選手権水泳競技大会

小林慧吾さん（1年） 中学1年生男子50mバタフライ 第1位 大会新
男子50m背泳ぎ 第1位 大会新

● 令和6年度山城地方『桜花杯』 男子バスケット部 準優勝

● 宣伝会議賞 中高生部門（応募総数 27,319 点）

莊司万夏さん（2年） 協賛企業賞
「わたしが分かる、気持ちが変わる。」（協賛企業：TOPPAN エッジ）

● 第22回全日本年賀状大賞コンクール 版画部門 中学生の部

奥田彩希さん（2年） 奨励賞

● 産経新聞主催 プロミスエッセイコンテスト

第2学年 「学校賞」を受賞！

《 令和7年度1学期のおもな予定 》

4月 1日（火） 離任式
8日（火） 1学期始業式
10日（木） 入学式（3年参加、2年自宅学習）
15日（火） 給食開始
17日（木） 3年全国学力・学習状況調査（国語、数学、理科）

5月 20日（火）～21日（水） 中間テスト
26日（月）～28日（水） 3年修学旅行
27日（火） 2年校外学習

6月 7日（土） 土曜参観（学校公開）
9日（月） 代休
14日（土） 乙訓陸上大会
30日（月）～2日（水） 期末テスト

7月 12日（土）～13日（日） 乙訓大会
18日（金） 1学期終業式